

大学生が復興支援のためのアイデアを実現できるプロジェクト 「学生ソーシャル・アクション・プログラム」を開始

復興のためのアイデアを公募し社会起業ノウハウでサポート

NPO法人ETIC. ([エティック]、代表：宮城治男、本部：東京都渋谷区) は、バンクオブアメリカ・メリルリンチをオフィシャルパートナーに迎え、社会課題解決のためのアイデアを自分で実現させる**マイ・プロジェクト**を支援する「学生ソーシャル・アクション・プログラム」の第一回公募を9月24日より開始しました。第一回のプログラムとして東北復興プロジェクト案を復興支援に関わった経験のある大学生・大学院生の中から公募し、審査により4件を採択し、支援します。

ETIC.では、2011年3月までに全国22地域で1000社・27大学と連携し、5500名の学生に実践型長期インターンシップの機会を提供してきました。また、240組の創業支援により400名の起業家を輩出しています。さらに東北復興支援に関しては、100名の若手社会人を50の団体に「右腕」として派遣し、2012年度の内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業の採択事業である「みちのく復興インターンシップ」には、300名の学生を派遣予定です。このような**社会貢献型のインターンシップや創業支援のノウハウを組み合わせ**、インターンシップと起業の中間ステップとして、東北復興やまちづくりの現場で見つけ出した課題に対する解決のアイデアを、自分で実現させる**マイ・プロジェクト**支援の仕組みを立ち上げました。本プログラムの立ち上げにあたり、社員による復興支援に取り組む中で同様のプログラムの必要性を強く感じてきたバンクオブアメリカ・メリルリンチがオフィシャルパートナーとして協力することになりました。

「学生ソーシャル・アクション・プログラム」は、アイデアや企画を提案するだけでなく、**実現するまでの過程でプロジェクトの実施リーダーとして、ニーズの調査や専門家へのヒアリング、協力者の巻き込み方を実践を通して学んでもらうことに重点を置いています**。インターンシップやボランティアでは、与えられた現場や課題の中で自分ができることをサポート的に取り組んでいたのに対し、**マイ・プロジェクト実践の場である「学生ソーシャル・アクション・プログラム」では、学生自身が課題意識を持ち、発見した課題の解決に取り組めます。自らがアイデアを実現するプロジェクトリーダーとなりステークホルダーや協力者との協業により目的を達成することを大切にします**。いま、復興や地域の現場では、自ら課題を見つけ出し、解決に向けて実行できるリーダーが必要とされています。プロジェクトの実施を通して、**それぞれがリーダーに必要な能力を身につけることも目的**としています。

また、プログラム実施中には3回の研修会（キックオフ研修会、中間研修会、最終報告会）を設けました。ここでは、復興支援やまちづくりに関わる経営者やコンサルタント、また本プログラムのオフィシャルパートナーであり、**世界中の多様なビジネス事例に精通したバンクオブアメリカ・メリルリンチよりアドバイスを受け**、プロジェクトの精度を高めます。これは、実践型インターンシップの仕組みを社会に定着させ、NPOの経営者や社会起業家を長年にわたり育ててきたノウハウやネットワークを全国に持つETIC.ならではのサポートです。さらに、本プログラムをプラットフォーム化することで、**対象を東北復興や大学生だけに限らず、社会の課題や全国のまちづくりの現場に応用**させていくことも目指しています。第2期は、同内容で2013年4月～9月に実施予定です。

「学生ソーシャル・アクション・プログラム」概要

- ▶名称：学生ソーシャル・アクション・プログラム
- ▶公募期間：2012年9月24日（月）～2012年10月7日（日）
- ▶プログラム実施期間：2012年10月～2013年3月
- ▶対象：東北復興に関する自分のアイデア、問題意識、プロジェクト案を持っている全国の大学生・大学院生
- ▶募集数：4件
- ▶実施内容：①現場や専門家へのヒアリング、ニーズ調査の手法を指導
②3回の研修会（キックオフ研修会、中間研修会、最終報告会）において、専門家によるアドバイス
③本プロジェクトのコーディネーターによる月1回程度の個別面談
④参加者同士の意見交換、ディスカッション
⑤活動資金の助成（30万円/件）
- ▶主催・運営：NPO法人ETIC. (エティック)
- ▶オフィシャルパートナー：バンクオブアメリカ・メリルリンチ
- ▶一般問合せ先：NPO法人ETIC. (エティック) 担当/川口・工藤・伊藤 TEL：03-5784-2115 E-mail：info@challenge-community.jp
- ▶オフィシャルウェブサイト：<http://www.etic.or.jp/mypro/>

報道関係

お問合せ先

NPO法人ETIC.(エティック) 担当：石塚真保、川口枝里子
TEL：03-5784-2115(10:00～18:00) FAX：03-5784-2116 E-mail：info@challenge-community.jp
〒150-0041 渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

実施スケジュール

<2012年>

9月24日(月)～10月7日(日)：公募期間

10月8日(月)～10日(水)：書類選考

10月18日(木)：選考会<プレゼンテーション&面接>(東京都内)
→選考委員による面接

10月21日(日)：オリエンテーション&スタートアップ研修会
→参加学生がプロジェクト実施に向けた研修を受け、意見交換などを実施

11月18日(日)：キックオフ研修会(仙台市内)
→参加学生、アドバイザーなどが一堂に集まり意見交換を実施

<2013年>

1月19日(土)：中間研修会
→参加学生がプロジェクトの中間報告を行い、アドバイスを受ける

3月26日(火)：最終報告会(東京都内)
→プロジェクトの最終報告をアドバイザーやそれぞれのプロジェクト関係者を招待して実施

※想定されるプロジェクト実施例

- ①岩手のボランティアに参加した東京の学生が、ボランティアの急激な減少に問題意識を持ち、自分の地元の学生を対象とした「観光ボランティアツアープロジェクト」を提案。
- ②当初「全国1万人をボランティアツアーで東北に送り込む」という実現可能性が低い提案だったため、キックオフ研修会でプロジェクトをブラッシュアップ。半年間で成果が出せる目標をたて、実施に向けた行動計画をつくる。
- ③研修後、現地に出向き、ボランティアツアーの訪問先として協力してくれる団体や旅行代理店を探す。この際、ETIC.のコーディネーターや現地メンターなどが訪問先の紹介や同行を実施する。
- ④ETIC.のコーディネーターや現地メンターが月1回程度の個別面談を実施。つまづいているポイントへのアドバイスや、適切な関係者や参考例を紹介する。
- ⑤現地での信頼関係がない中、協力してくれる訪問先が確保出来ず、行き詰まる。そこで現地メンターより、訪問先の紹介や、現地で信頼関係を築く方法などのアドバイスを受けながら、訪問先を確定する。
- ⑥ツアー内容を確定させ、まずは大学の友人10名に対し、テストツアーを1回実施。テストツアーのアンケートを元に、ツアープランのブラッシュアップを行う。
- ⑦改善したプランを元に、地元の旅行代理店に協力を依頼、大学生を対象としたツアーを実施。
- ⑧定期的な開催ができるよう、大学生以外の顧客(地元の中小企業や商店街の研修など)を視野に入れた、ツアーの開発や販売を提案。

※その他、想定されるプロジェクト例

- ・仮設住宅でのコミュニティづくりにボランティアで関わってきた学生が、住民の移動の不便さを解消するために、カーシェアリングをベースにした買い物・通学難民解消に向けたプロジェクトを実施
- ・被災地の漁協で、カキの養殖オーナー制度の立ち上げに関わった学生が、本プログラムを通して全国に50人の新規オーナーを開拓。開拓を通して学んだノウハウをまとめて、同様の事業で転用可能なマニュアルを作成
- ・宮城の被災地で農家の復興に携わった学生が、自分の地元と宮城の食材を使った「復興1日レストラン」を地元で開店。宮城と地元の農家・シェフ・加工業者などを結び付けることで、「復興1日レストラン」の定期的な実施を提案

アドバイザー

船木成記氏(尼崎市顧問・株式会社博報堂勤務)

広石拓司氏(株式会社エンパブリック代表取締役)

川崎克寛氏(つなプロ気仙沼代表)

菊池広人氏(きたかみ復興支援協働体事務局長)

友廣裕一氏(一般社団法人つむぎや代表)

伴場賢一氏(一般社団法人Bridge for Fukushima代表理事)

成田好孝氏(アカシック株式会社代表取締役)

能島裕介氏(NPO法人ブレインヒューマニティー理事長)

NPO法人ETIC. (エティック) とは

1993年、学生起業家支援の全国ネットワークとして「ETIC.」を創設。次世代を担う若者への機会提供を通して、Entrepreneurial Leader(起業家型リーダー)の輩出と、社会にイノベーションを生み出すことを目指すNPOとして、これまでに400名を超える起業家を輩出してきました。

また、全国22地域で1000社・27大学と連携して、年間約500名の20代若者にインターンシップなどの機会を提供しています。2011年からは震災復興支援にも注力し、50のプロジェクトに若手社会人100名以上を送り込み、コミュニティ再生、産業復興等の支援に取り組んでいます。さらに、2012年度の内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業の採択事業である「みちのく復興インターンシップ」には、300名の学生を派遣予定です。

企業との連携事例としては、2002年よりNECとともに「NEC社会起業塾」を運営し、48団体の社会起業家を輩出してきました。2009年からは横浜市、2011年からは花王株式会社が新たに参画。2011年6月には社会起業家支援プラットフォーム「社会起業塾イニシアティブ」(主催：NPO法人ETIC.、オフィシャル・パートナー：NEC、横浜市、花王株式会社、プログラムパートナー：株式会社電通)に発展させ、「NEC社会起業塾」「横浜社会起業塾」「花王社会起業塾」としてそれぞれ社会起業家の創業支援をしています。

オフィシャルパートナー バンクオブアメリカ・メリルリンチCSR推進チームの声

東日本大震災発生直後より、バンクオブアメリカ・メリルリンチは被災地での社員ボランティアによる緊急支援活動等、被災地復興支援に対して様々な取り組みを行って参りました。そして震災から1年以上が経ち、今、復興支援に最も必要なのは、これからの復興活動を支える若手リーダーの育成であると感じています。「学生ソーシャル・アクション・プログラム」は、東北の復興を担う次世代リーダー達の創出を目指し、復興支援に取り組む志ある若者達のチャレンジを応援するプログラムです。東北の復興支援に若者が集まる流れを留めることなく、5年後も10年後も若者達が集う、活気溢れる東北の未来を共に創っていく機運が、この取り組みをきっかけに高まることを期待しています。

学生ソーシャル・アクション・プログラム 取材申込票 FAX返送先：03-5784-2116

※ FAXにて実施の2日前迄(土日祝除く)にご返信いただけますようお願い致します。

ご取材いただけるイベントに☑を入れてご返信下さい。

<2012年>

- 10月18日(木) 15:00-19:00 : 選考会<プレゼンテーション&面接> (東京都内)
→選考委員による面接
- 10月21日(日) 11:00-19:00 : オリエンテーション&スタートアップ研修会
→参加学生がプロジェクト実施に向けた研修を受け、意見交換などを実施
- 11月18日(日) : キックオフ研修会 (仙台市内)
→参加学生、アドバイザーなどが一堂に集まり意見交換を実施

<2013年>

- 1月19日(土) : 中間研修会
→参加学生がプロジェクトの中間報告を行い、アドバイスを受ける
- 3月26日(火) 13:00-18:00 : 最終報告会 (東京都内)

<その他>

- 全体の概要などを上記日程以外で取材希望

※詳細はオフィシャルウェブサイト (<http://www.etic.or.jp/mypro/>)にてご確認ください。

◆撮影の有無について

- 撮影あり (ムービー / スチール)
撮影なし

貴媒体名:

御社名:

お名前:

人数:

名様

ご連絡先:

メールアドレス:

通信欄:

報道関係

お問合せ先

NPO法人ETIC.(エティック) 担当:石塚真保、川口枝里子

TEL:03-5784-2115(10:00~18:00) FAX:03-5784-2116 E-mail: info@challenge-community.jp

〒150-0041 渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階